



第193号
 発行所 上高井教育会
 発行人 上高井教育会長 彦
 市川武彦
 編集人 会報編集委員 長子
 齋藤章
 印刷所 須坂新聞社

不易なるものを忘れることなく

副会長 宮入英俊

四月から完全学校週五日制のもとで新学習指導要領が全面实施されます。平成十四年度の各校の教育課程が、移行措置二年間の教育実践をもとに編成されています。

本年度は、教育改革関連六法の成立、少人数学習集団指導等教育改革の施策が実施された年でありました。そして、学力への影響について様々な意見があるなか、一月に文部科学省は宿題や補習の充実、理解の進んでいる子には発展学習等具体的な対策を発表しました。また、四月から県内の小学校で低学年三十人規模の学級編制事業が導入されます。教育改革は、制度的なものに傾きがちですが、あらゆる教育の問題は教師に帰着すると言われます。私たち一人ひとりが「教育は人なり」に思いをいたし、自ら研修に努めたいものです。

な取り組みにより、職能の向上という本教育会の目標を達成できたと思います。また、完全学校週五日制に向け、総委員会、講演会、研究発表、研究会、同好会、会合日のあり方について検討をしました。研究委員会は、総合的な学習の時間など新教育課程も含めて、十年間中心講師谷川彰英先生のご指導のもとに授業を通して研究を進め、多くの成果をあげることができました。新年度から中心講師に筑波大学教授田中統治先生をお願いし、新しいテーマで研究が始められます。新しいテーマについて主体的に研究を進め、深めてほしいと思います。

地域協議のあり「子どもがたいです」「校庭で一緒に遊ぶ先生が見られるようになりましたね」という声をききます。教師が、子どもたちのために歩む努力をしているなら、おのずから保護者や地域から信頼されると思います。子どもや保護者から慕われ、信頼された時に初めて教育効果も上がるものと考えます。教育の転換期、教師の意識改革をと言われます。教育環境が整えられ、それを生かす教師としての指導力や熱意が求められ、教育会の果たす役割が大きいと思います。教育会の各種研究会や同好会に積極的に参加し、先輩の話を聞いたり、会員相互に教育実践を交換し合い、教師としての力量を高めたものです。

上高井教育の精神「不易流行」、先人がその時々の教育課題の解決に向けて取り組んだ教育理念や教育実践に学ぶことが、私達の道標になるのではないのでしょうか。子どもたちの視線に立って、新しい教育課程の具現化を図るよう、会員相互で支え合い、研鑽の場として充実した活動を願っています。

本校の中核活動

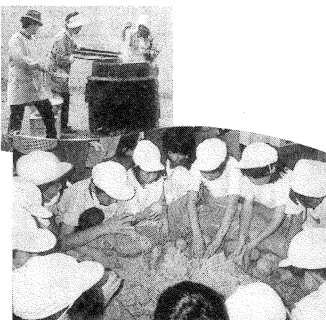
「桐里つ子」によせて

井上小学校

本校では、特色ある教育活動の視点として「地域に学ぶ」「異年齢交流活動」をおき、生活科・総合的な学習の時間・教科学習等と連携を図りながら学習を進めている。

総合的な学習は昨年度より進められており、本校の校章にも掲げられ、校歌にも歌われている桐の里にちなんで「桐里つ子(きりりつこ)」と名付けられた。桐里つ子の学習内容を昨年より振り返ってみると、米・大豆・りんご・野菜の栽培活動「デイサービズセンター」桐の里との交流活動、鮎川等自然とのふれあい活動、養蚕等地域の歴史に関わる活動等、様々な学習活動が行われた。いずれも、学校から地域へ踏み出し、地域のものごと・人・自然と関わっていく活動である。その中で、自分の目で見、耳で聞き、声をかけ、手触りで感じながら、調べ、見つけ、疑問に思い、さらに調べている子どもたちの姿が重ねていく姿があった。

例えは五年のときに大豆を収穫し、麦を育ててきた六年生の子どもたちは味噌や麺を作りたいという願いを高めながら、学習を進めてきた。味噌作りについて調べていく中で、昔家で味噌を作っていた地域の方と出会い、教えていただきながら自分たちの手で味噌作りに取り組んだ。味噌作りの工程だけでなく、味噌作りに関わる方々の知恵や工夫に学び、豆の手触り、匂いを直接感じる中で体験的な学習が行われた。



こうして学んだこと、重ねを通して、子どもたちの中に自分たちの学んだこと、や感動を発信したいという願いが高まっていった。本校では各学級の活動の発表のひとつの機会として全校活動「桐里つ子まつり」がある。本年度は十月二十日に行われ、保護者・地域の方も大勢参加協力をいただいた。

教育会だより

- 1・15 第2回研究委員会世話係・委員長会
- 1・19 第8回同好会
- 1・22 第6回研究小委員会
- 1・24 第2回同好会世話係・会長会
- 2・6 第7回常任委員会
- 2・21 第7回代議員会
- 2・26 上高井教育会報第193号発行
- 3・1 第8回常任委員会
- 3・7 第8回代議員会
- 3・12 上高井教育会誌第58号発刊

少人数学習を振り返って

奥村 康仁

今年度から本学校では五、六年生の国語と算数の少人数学習が始まりました。その中で私が一年間を振り返り、大切だと思ったことを三つ挙げたいと思います。

一つ目は、人数の少なかつたことを生かして、基礎基本の力を伸ばしていくことです。国語では特に話す、聞く力をつけたいと考えました。

そのために、感想発表の場面で、しっかりと友達の間を聞き、それについて良いことや同意したことなどを話す機会を設けています。人数が少なく、多くの子どもが意見を言う機会が増えました。算数では、一人ひとりのペースにあった学習がしやすくなりました。

課題を早く終えた子どもにはより難しい問題に挑戦する学習を、授業だけでは課題を覚えることが困難な子どもには放課後の個別学習も行いました。授業中に理解できなかった三角形の面積を、個別学習により、できるようにした子どももいます。放課後残って勉強することは、時には辛いことですが、理解できると楽しそうな顔になります。

二つ目は、協働することです。自分の苦手なところをフォローしてもらい、得意なところではフォローしていき、お互い協力し合い働くことが大切だと思いました。教材研究や生徒指導、子どもの様子について他の先生方と話し合う機会が増え、とても勉強になりました。

三つ目は、多くの人と関わる機会ができたことです。定期的に集団が変わるので、子どもたちは他のクラスの子とも担任以外の教員と関わる機会が増えました。固定された人間関係ではなく、多くの人と関わることは大切なことだと思えます。国語や算数の勉強するためだけに作った集団ではなく、多くの人と関わり、良いところを見つけ合えるような場になると良いと思います。さらに、一人の子どもを多くの教員の目で見ることができるとも良いところだと思えます。

少人数学習は工夫しだいで、もつともつと有効に使えるものだと思います。職員同士話し合い、より良い工夫を考え、ていくことが大切です。
(栗方丘小)

総合的な学習における新しい試み

中沢 裕子

須坂小学校では、昨年度から公民館の「こども21須坂未来大学」常盤分校の活動に参加し、地域の方々との活動を作り出す総合的な学習を試みてきた。

地域にいらつしやる専門的な知識・技術を持った方々との活動は、子ども達にとつて我が町、ふるさと須坂を見直すきっかけとして大きな成果をあげることができた。

また、三年生が、中・高校生、高齢者と活動した「そば打ち」の活動から、異年齢集団が思

いやりや支え合いを育む場として有効である事もわかってきた。「地域と共に学ぶ」「異年齢集団の関わり」「継続的な活動」を子どもの力を育むキーワードとしての取り組みが始まった。年間約90時間の総合的な学習のうち、36時間は三年生から六年生の異年齢集団による総合的な学習の時間とし、第二、第四金曜日の五、六校時をこれに当てた。

総合的な学習

一年間を振り返って

楠 直樹

本校では、「壮心不已」の校訓のもと、逆境や困難を乗り越える強い意志を持ち、「優しさ」と輝きのある中学生(学校教育目標)の姿を求めて、日々教育活動の研究を進めてきた。来年度に迫った新学習指導要領完全実施を前に、相森中学校らしい特色ある教育活動を求める具体的な方策の一つとして、総合的な学習を重点研究に据え、自らの希望を持って

域の方々に関われる活動を考え、①そば栽培とそば打ち②押し花③川探検④須坂の昔⑤蚕の飼育⑥公民館便り⑦ビデオ制作⑧ポランテア⑨お店体験の九講座とした。子ども達は希望の講座を選択し、保護者にも参加を呼びかけ、地域・家庭とが一体で子どもと共に学び合える場としたのである。

二学期までの15回の活動を通して明らかになってきた成果は、地域の素材であるがために日常的な関わりができる、地域の人々とのコミュニケーションが深まる、異年齢での思いやりの心が広がる、専門的指導によって高い技術が身についたり知識が深まる、と進めてきた。一つ目は「学級を基盤とした総合的な学習の展開」。二つ目は「外部講師の導入」である。

一年間を振り返って

新たな試み

特殊学級交流会

平出久美子

今年度、上高井特殊学級担任者会では、児童生徒同士が関わりあえる活動を行おうというこ

とは、発表者にとつては、認められる場であり、見る側にとつても、自分たちの活動の参考になる良い機会になります。常盤中学校からは、みんな

を決めたので、違う学校の生徒や先生と一緒にコースを回りました。上手な先生から打ち方を教えてもらったり、草むらに入ったボールをみんな

いうことで、小学校を3ブロック、中学校を2ブロックに分け、ブロックごとに交流活動を行うことにしました。活動の内容は、各ブロックで決

と改めて感じた時期でもありました。すぐに、私は大きな悩みを抱えしました。「教科指導力が無い、生徒指導力もない」何から何までどのようにしたらいいのか

のやりとりもしました。このように、とても有意義な時間を過ごすことのできた交流会、来年度以降もぜひ続けて

めてよいことにしましたが、何をやればよいのか、移動手

と改めて感じた時期でもありました。すぐに、私は大きな悩みを抱えしました。「教科指導力が無い、生徒指導力もない」何から何までどのようにしたらいいのか

のやりとりもしました。このように、とても有意義な時間を過ごすことのできた交流会、来年度以降もぜひ続けて

初任者研修

三井 陽介

私にとつて初任者研修とは「講師の先生方の協力により、教師としての資質を高める場であると共に、教師という立場を少しでも忘れて、リラックスした気分

の充実や向上につながる講座。どの講座を取つてみても、学生気分を一掃し、教師としてスタートをきった四月の自分

の心構えは「子どもに嫌われないように接しよう」という消極的な思いばかりであったのを思い出します。「自分ももっと

育の基本と心がまえ」という教師としての気持ちの持ち方の根底から、「通知票や学級通信の書き方、コンピュータの練習、教科の指導方法」など、次の

そんな自分で一杯の時期がありました。そんな自分を勇気づけてくれたのも初任者研修でした。講師の先生方は私たちに分かりやすく、教師のイロハを教えてくださいました。そして、私を

自分があることをとても嬉しく思います。初任者研修に関わつてくださいました多くの方々

習、教科の指導方法」など、次の日からすぐに実践できる、私にとつては非常に即戦力となる講座。「カウンセリング」など、子どもとの接し方に重点を置いた、教師としての実践的指導

そんな自分を勇気づけてくれたのも初任者研修でした。講師の先生方は私たちに分かりやすく、教師のイロハを教えてくださいました。そして、私を

自分があることをとても嬉しく思います。初任者研修に関わつてくださいました多くの方々

本校の宝③ 松林とアカシア 墨坂中学校

須坂市民歌に「墨坂の森を彩り」とあるように、墨坂中学校は、今から四十三年前に百々川の河原に自

を彩り」とあるように、墨坂中学校は、今から四十三年前に百々川の河原に自生する松林と生い茂るアカシアを切り開いて建設された。以来、営々として環境を整え、その中で生徒はひたすら学び、伝統を築いてきた。



現在、校地内には当時の松林の名残りが、校舎南側と玄関左側に自然林として残され、大樹隆々として今でも仰ぎ見ることができ



「墨坂」を包んでアカシアの葉の校章に象徴されているように、「ここに集う生徒たちが深い友情を培いながら、墨坂中学校をより良い学校にしていってほしい」と、昇降口の正面に取り付けてある校章は、毎朝登校して

に残された松林と共に語りかけている。(石川秀幸)

火ばら談義



栗ガ丘小 鈴木史朗

ランナー

小林 一夫

二十七歳の時からランニングを始めた。二校目の学校に赴任した時、先輩のI先生と出会ったことがきっかけだった。I先生から、「一緒に走ろう」と声をかけられ、勤務終了後、練習するようになった。休みの日には、長い距離を走った。そのうちいろいろな大会にも出るようになった。仲間を募って駅伝にも出た。

かつて自分は、高校の時に一年間、陸上部に所属していた。その頃の「走る」は「競う」ことであつた。あまり選手として速くなかつた自分にとって「走る」ことが苦痛に感じることが多かつた。しかし、I先生と走り始めてからは、自分のペースで走り、自分なりの練習をするようになった。そして、いろいろな地方の大会に出て(半分旅行気分)その雰囲気を楽しんだり、自分なりの目標で走ったりするそんな「走る」ことの「楽しさ」を知ることができた。今では、三日走ることを休むと、気持ちが悪くなる

いほどになつてゐる。

まだ走り始めて約十年のランナーであるが、数多くの人の出会いや思い出ができた。初めてフルマラソン(四二・一九五K)を完走して、涙したこと。リフレッシュ年休を利用してのハワイホノルマラソン。冬季長野オリンピックの聖火ランナーをつとめたこと。百キロウルトラマラソンにチャレンジしたこと。短い距離であるが、トライアスロンにもチャレンジしていること等々。I先生はもちろん、「走る」ことを通して出会った人々は、様々な面において自分にとって、かけがえのない人達であり、思い出であり自分の宝となつてゐる。

仕事で失敗したり、人間関係で悩んだりしても「走る」ことだけは、決してやめることはなかつた。心の支えになつてゐる。これからも、無理せずいつまでも走っていきたいと考えてゐる。自分は何歳まで走り続けているだろう。

(小布施中)

笑う門には健康も来る

浅野ちえみ

私は、高校生の時から続けているスポーツがある。それはバドミントン。高校・大学と部活でやり、養護教諭として木曾に赴任した時も、近くの中津川市のバドミントンクラブに入り、岐阜県の試合に出させていただいた。所々の勤務地で地元クラブに入り、バドミントンを続け、現在も毎週練習をしている。

私は体を動かすことが好きで、特にバドミントンが楽しいので続けているが、自分の好きなことをやっている時は誰でも気分が良いものである。練習に行くくと、20歳代から60歳代の様々な年齢の人達、また、医師や料理人、整備士、銀行員など様々な職種の人達がいます。そんなのは関係なく、みんな好きなバドミントンをやるために集まってくる。ジャンケンでペアを決めて試合をしたり、コート外では、仕事の話ではない雑談をしたり

ちよつと哲学的に書いてみました

古村 淳仁

昨年のことですが、教育相談で生徒に、「先生、人間は何のために生きてゐるの?どうせ、いつかは死ぬとわかつてるのに。」という質問をされました。

そのとき私は、「いつかは死ぬけど、死ぬことは目的じゃないと思う。だとすると『生きる』ってこと自体が目的になつてくるはずだ。そして、どうせ生きるなら、誰もが上手に生きて、幸せになりたいと思うはず。でも、もし上手な生き方があるなら、『うまい生き方』なんて教科書があつて、みんながそれを読んで

いので続けているが、自分の好きなことをやっている時は誰でも気分が良いものである。練習に行くくと、20歳代から60歳代の様々な年齢の人達、また、医師や料理人、整備士、銀行員など様々な職種の人達がいます。そんなのは関係なく、みんな好きなバドミントンをやるために集まってくる。ジャンケンでペアを決めて試合をしたり、コート外では、仕事の話ではない雑談をしたり

と楽しい時間である。みんな年に数回は試合にも出てゐる人達なので、真剣に強くなるために練習をしている中でも、和気あいあいと試合練習をやっている。試合中は、自分が打ったシャトルで決まった時は、『やった!』という気分爽快感、自己満足感があり、逆に、うまくいかなく落ち込む時もある。時には、プレイ中とても楽しく、腹筋が痛くなる程笑つてしまう試合の時もある。いろんな個性の人がいるが、同じ目的を持って集まってくる仲間との時間は、気分転換になり気持ちがリフレッシュされる。

健康に関する記事に『笑う門には健康も来る』というものがあつた。このことは医学界でも研究されていて、笑いやユーモアは免疫力を活性化し、反対に悲しみや不安は免疫力を弱くすることがわかっているそうである。

私は、バドミントンの他にもスキークラブの仲間がいるが、同じ目的を持った仲間と練習し、好きなことを言い合ひ、大笑いしたりと楽しい仲間をやり、いろんな人達と楽しく笑いながら過ごすことが、私の健康の秘訣だと思ふ。

健康に関する記事に『笑う門には健康も来る』というものがあつた。このことは医学界でも研究されていて、笑いやユーモアは免疫力を活性化し、反対に悲しみや不安は免疫力を弱くすることがわかっているそうである。

会う度に、新しい「上手な生き方」を発見することができて、たまには仕事も楽しいなあ、と思ふ私です。(常盤中)

編集後記

♪どこかで春が生まれてる 頬ふれる風にも春の匂い が感じられる今日このごろ。 三月―親友との別れの時期 卒業式の準備にむけて練習していることでしょうか。

本号では平成十四年から始まる新教育課程に向けて、各校での新しい試み(少人数学級・総合的な学習の成果)を中心に編集いたしました。 学年末のお忙しい中、原稿をお寄せいただいた先生方から感謝申し上げます。